



葬儀のしおり

浄土真宗本願寺派 (西本願寺)

大分教区

だい かい そ
大海組



浄土真宗のご本尊（仏さま）

浄土真宗のご本尊は阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）という仏さまです。

阿弥陀如来は仏さまと成られる前に、生まれては死に、出会いと別れを繰り返す私たちの苦しみ悲しみをご自身のこととして、「すべての者をお浄土じょうどに生まれさせ仏さまにすることができないなら、我も決して仏とはならない」とお誓いになりました。そして、永遠ともいえるほどの時間をかけてご修行を重ねられ、ついにお誓い通りの仏さまと成られました。

お名前の「阿弥陀」とは無量という意味です。限りない寿命いのちによっていつでも、果てしない光明ひかりによってどこにでも至り届いて下さる仏さまなのです。そして、私たちがお浄土に生まれたいとも仏さまに成りたいとも思わない時から、阿弥陀如来は「まかせよ、必ず我が浄土に生まれさせ仏さまにする」と喚び続けてくださいました。その救いを告げる喚び声こそが「南無阿弥陀仏」なのです。

阿弥陀如来の喚び声は、今ここに至り届き、私の口から「南無阿弥陀仏」のお念仏となってあらわれ出て、いつもご一緒くださいます。それは私の声でありながら、そのままに私に至り届いた阿弥陀如来の喚び声そのものなのです。

法名・院号の意味

法名ほうみょうは、仏さまのみ教えに生きることを決意した人に与えられるものであり、仏弟子であることをあらわす名前です。仏弟子としての名な告りのですから、お釈迦さまの釈しやく（釋）の字をいただいて「釈（釋）〇〇」といただきます。

法名は、生前ききょうしきに「帰敬式（おかみそり）」を受式もんしゆしてご門主様からいただくものですが、故人が帰敬式を受けておられなかった場合は、所属寺の住職が帰敬式を行い葬儀をとりおこないます。

なお、浄土真宗では戒名かいみょうという言い方はしません。戒名は自力修行じゆかいを目指し受戒した人に授けられる名前なづですから、浄土真宗にはそぐいません。

院号いんごうは、寺院ごじの護持・発展に功績のあった方に、授与されるものです。詳細は所属寺にお尋ねください。



浄土真宗の葬儀とは

この世に生まれた者は必ず命を終えてゆかねばなりません。けれども、私たちの限りある人生に、いつでもどこでも寄り添ってくださるのが阿弥陀如来あみだにょらいです。先立って往ゆかれた故人の生涯のこも、遺された私たちの人生も、ともに限りない阿弥陀如来のはたらきにいだかれています。深い悲しみをご縁として、阿弥陀如来の智慧ちえと慈悲じひを味わわせていただきたいものです。

浄土真宗もんしんとの門信徒にとっての葬儀は、永遠の別れを告げる儀式（告別式）ではなく、故人を悼いたみ遺徳いとくを偲しのぶとともに、また会える世界（お浄土）のあることを、ともにお聞かせいただくご縁です。

故人は阿弥陀如来のおはたらきでお浄土に生まれ、私たちを導いてくださる仏さまとされました。遺された私たちも同じお浄土に生まれ行く仲間であることを感じられるような葬儀を、遺族・親族うえん・有縁の皆様とともにおつとめしたいものです。

家族葬や直葬ちよくそうについて

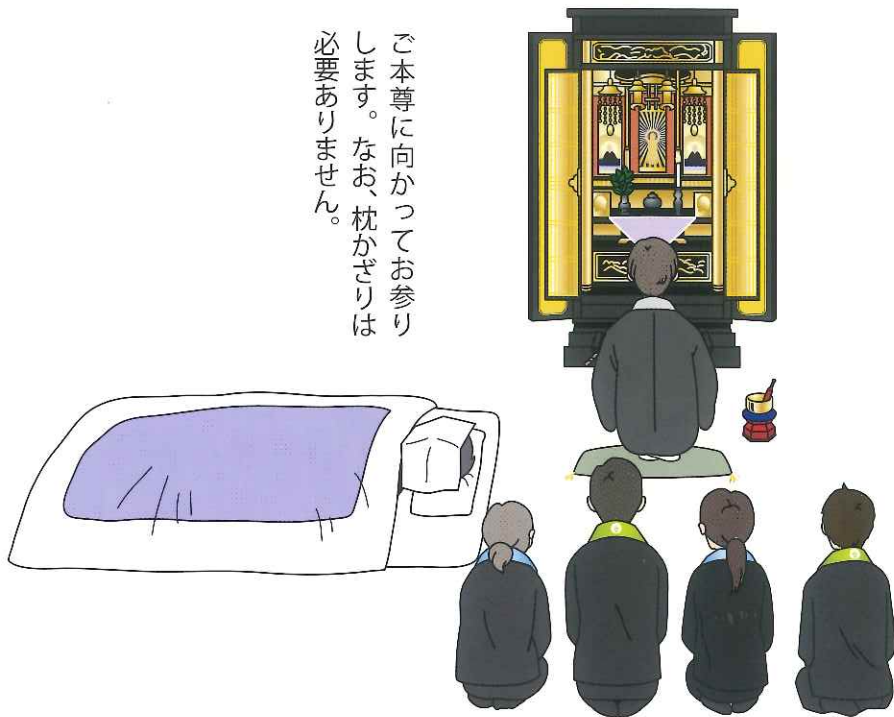
最近、近親者のみで故人をお見送りする小規模な葬儀（いわゆる家族葬や直葬）を希望される方も増えてきました。地域や社会のつながりが強い大分では、葬儀に参列できなかった方が後日自宅に来られて、遺族・親族がその対応に追われてしまうこともありますのでご留意ください。

葬儀は、故人の社会的なつながりや生前のエピソードなど、遺族・親族がこれまで知らなかったことを知る大切な機会でもあります。多くの方々と「ご縁」の中で、精一杯の人生を生き抜かれた故人を偲しのび、「お礼を申したい」との思いを持つ方々とともに、お法りにあえる葬儀をおつとめしましょう。

仏間や式場の配置例

1

臨終勤行のお勤め



ご本尊に向かってお参り
します。なお、枕かざりは
必要ありません。

葬送儀礼一連の流れ

連絡

ご家族やご親族がご往生された(亡くなられた)際、まずは所属寺に連絡をとります。

「臨終勤行」とは、本来は人生の終わりに臨み、今までお育てにあずかったお家のご本尊へ最後のお礼をするお勤めのことです。しかし、実際には自身の臨終にそれを行うことができない場合が多く、命終の後、僧侶が遺族とともに故人に代わってお勤めをします。なお、臨終勤行は「枕経」とよばれる場合もあります。

●臨終勤行の際に、所属寺と直接お話をしして不明な点など遠慮なくおたずねください。

◆参照

? 友引

「友引」とは六曜の一つですが、「友引に葬儀をすると友を引く」というのは文字にとらわれた迷信です。葬儀の日取りを決める際、日の良し悪しはありません。

棺に納める際、服装については、特に決まりはありません。

浄土真宗は、阿弥陀如来のはたらきにより、命を終えた即時に極楽浄土に往生させていただきみ教えです。故人は死出の旅路に出るわけではありませんから、死装束は必要ありません。

「通夜」は夜伽ともいい、近親者や友人・知人などが集まり、夜を通して故人との最後の時間を共にする場です。通夜勤行や法話などを通して、自らの死をもって無常の道理を示してくださった故人を偲びつつ、み教えに触れるご縁とさせていただきます。

◆参照

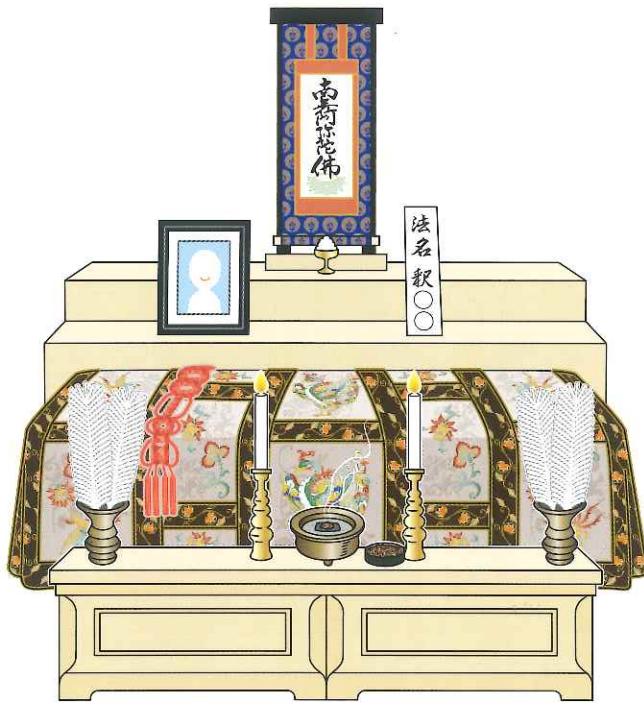
通夜

納棺

臨終勤行

通夜・葬儀のお荘厳（お飾り）

法名や遺影はご本尊の正面を外して置きます。浄土真宗門徒の3点セット（お念珠・聖典・門徒式章）を持参して一緒にお参りしましょう。



お礼参

還骨

火葬

葬儀

「葬儀」は、お浄土にご往生された故人を有縁の方々とともに
お見送りし、すべてのものを救おうと、はたらきつづける阿弥陀
如来のお徳を讃える儀式です。それは、お浄土へ往生された故人
の生涯を偲びつつ、遺された私たちもすでに阿弥陀如来のはたら
きの中にあり、また会える世界（お浄土）があるということを深く
味わう仏縁なのです。ですから浄土真宗の葬儀は、故人に対して
別れを告げる儀式（告別式）ではありません。 **2** 参照

火葬場にて、火葬ならびに収骨をします。

お家にご遺骨を持ち帰り、仏間に安置してご本尊にお礼を申し
ます。

「お礼参」とは、所属寺のご本尊にお礼のお参りをする事です。
お布施などはこの時に持参、お供えする方が多いようです。

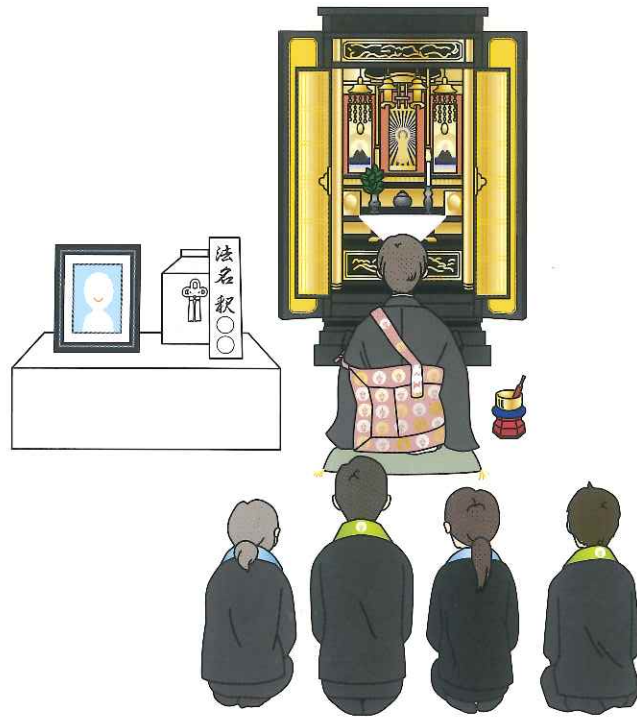
● これからの仏事や不明な点についても所属寺におたずねください。

？ お布施について

「布施」とは、執着を離れた慈悲の心によって、ひろく他者
へ与え施すことをいいます。ですから、布施は、何らかの見
返りを期待して施すものではなく、また、仏事を執り行つた
ことへの対価として受け取るものでもありません。

浄土真宗のお寺は、お布施などの懇志に支えられ、今日ま
で聞法の道場として護持されてきました。それは阿弥陀さま
のお法を聞き、お法を依り処とされた先人方の、御恩報謝の
尊いお心によるものです。

阿弥陀さまのお法が、より多くの方々への心の依り処となり、
後の世まで伝わるよう、お寺の護持運営にできる限りのご理
解・ご協力をいただければ、まことに尊くありがたいことです。



葬儀に限らず、仏事には
浄土真宗門徒の3点セット
(お念珠・聖典・門徒式章)
を持参して一緒にお参りし
ましょう。

ひゃっ にち
百か日

のう こつ
納骨

ちゅう いん
中陰

「中陰」とは、故人が往生された日から四十九日までの期間のことです。七日ごと(初七日・二七日・三七日・四七日・五七日・六七日・七七日(満中陰))にお勤めをいたします。すでにお浄土で仏さまと成られた故人の遺徳を偲びつつ、遺された私たちがみ教えに出あわせていただく大切なご縁です。

？ 四十九日が三月にかかる

「四十九日が三月にかかると良くない」という迷信があるようです。これは単に「始終苦が身に付く」という語呂合わせであり、仏教において何の根拠もない迷信です。ですから四十九日のご法事を二ヶ月目に引き上げる必要はありません。

？ 灯明やお香を絶やしてはいけない

故人が迷うからと、四十九日(満中陰)まで線香や灯明の火を絶やしてはいけないという考えがありますが、浄土真宗では、その必要はありません。お勤めの際に灯明の火をつけ、線香は適当な長さに折り寝かせてお供えください。

納骨の時期について特に決まりはありませんが、近親者が集まる四十九日(満中陰)を目安にして納骨される場合が多いようです。納骨の方法については所属寺におたずねください。

ご往生の日から百日目にお勤めいたします。これまでが葬送儀礼の一連の流れとなりますが、仏さまのご縁に終わりはありません。「初盆」「一周忌」など、み教えにあう仏事を大切にお勤めいたします。

喪主挨拶の文例

遺族・親族を代表してご挨拶申し上げます。

本日は、葬儀をお勤めくださいました
〇〇寺様、ご参列の皆様には、ご多用の中
ご会葬たまわり、まことに有り難く、御礼
申し上げます。

故人〇〇〇〇は、〇月〇日〇歳を一期とし
て人生を全うし、阿弥陀さまのお浄土に往生
させていただきました。

(故人のエピソードや、最期の様子)

阿弥陀さまのおはたらきで尊い仏さまと
なった故人が、遺された私たちを見まもり、
今後とも導き続けてくださるものと受け止
めております。

私たち遺族につきましても故人生前中と
同様に、今後とも皆様のご厚誼・ご指導をた
まわりたく、お願い申し上げます、ご会葬
の御礼に代えさせていただきます。

本日はまことにありがとうございました。

弔辞の文例

故〇〇さまの葬儀に際し、阿弥陀さまの御尊前に
謹んで申し上げます。

(故人のエピソード)

もはや生前の温容に接することはかありませんが、
これからはお浄土で仏さまとなられた〇〇様に導かれ、
いよいよ浄土真宗のみ教えを聴聞させていただきます。
お浄土でまた、お会いしましょう。

〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇代表〇〇〇〇

浄土真宗の言葉の使い方

ふさわしくない言葉

ふさわしい言葉

「御霊前」

↓ 「御尊前」

「冥福を祈る」

↓ 「哀悼の意を表す」

「天国・草葉の蔭・
黄泉の国」

↓ 「お浄土」

「永眠」

↓ 「往生」

「告別式」

↓ 「葬儀」

「(天国で)安らかに
お眠りください」

↓ 「(お浄土から)私たちを
お導きください」

「さようなら」

↓ 「お浄土で
またお会いしましょう」

わたしの宗教

しゅうめい じょうど しんしゅう
宗名 浄土真宗

しゅうそ しんらんしょうにん
宗祖 親鸞聖人

しゅうは じょうど しんしゅうほんがんじ は
宗派 浄土真宗本願寺派

ほんざん りゅうこくざん ほんがんじ にしほんがんじ
本山 龍谷山 本願寺(西本願寺)

ほんぞん あみだによらい なもあみだぶつ
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

葬儀に限らず、仏事には浄土真宗門徒の3点セット(お念珠・聖典・門徒式章)を持参して一緒にお参りしましょう。



せいがん
誓岸寺(挾間)

せんねん
専念寺(野津原)

かくねん
各念寺(高瀬)

いとく
威徳寺(勢家町)

えんこう
圓光寺(三佐)

ちょうこう
長光寺(大在)

みょうれん
妙蓮寺(里)

りゅうほう
流芳寺(久原)

とくおう
徳應寺(佐賀関)

こうりん
光林寺(挾間)

ぶつごん
佛言寺(野津原)

しんこう
眞光寺(寒田)

せんそう
専想寺(森町)

ふくしょう
福正寺(鶴崎)

こうこく
光國寺(里)

せんぎょう
専行寺(坂ノ市)

きょうせん
教尊寺(神崎)